

2022年度 関東学生水球リーグ戦水球 【戦評】

会場：慶応義塾大学

【2022/5/15】

この試合のプレー集計

1部	日本体育大学 22	5	—	3	7 慶応義塾大学
		7	—	2	
		5	—	2	
		5	—	0	
		PSO			
審判:		潮崎 正一			
		森下 正樹			

日本体育大学	39	SH数	32	慶応義塾大学
	17	速攻数	7	
	14	ST・SB	9	
	13	SH・P誘発アシスト	10	
	70%	GK阻止率	29%	
	7	EX反則数	6	

ST・SB:ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

1P

慶大ホームで3年ぶりの保護者観客を入れての対戦で、慶大メンバーの意気込みは高く、序盤は慶大ペースとなった。先制点こそ日体大④宮澤にペナルティを決められたが、その後は慶大センター②田中が独特のフローティングで日体大DFを翻弄し、6:27には慶大⑤矢作が誘発した退水攻撃を②田中が決めて同点にすると、2:19には②田中がセンターシュートを決めて、この時点で日体大2-3慶大と慶大の健闘ぶりが場内を沸かせた。その慶大に格の違いを見せたのが、2:01の日体大センター④宮澤の身体の使い方。センター位置で慶大3人DFに囲まれた中、⑨渡邊が抜群のタイミングで④宮澤へ上パス。受けた④宮澤がボールを上に掲げた状態で反転して3人DFを振り切り、見事なシュートを決めて同点に。最後はジュニア時代からよく見せている⑨渡邊のタイムアップ寸前のロングシュートを決め、序盤の慶大盛り上りを完全に封じて日体大5-3慶大で第1ピリオドを終えた。

2P

やや疲れの色が見える慶大に日体大のカウンター攻撃がさく裂して一気に3連続得点で点差を広げた。中盤、慶大GK①吉田のボール奪取から⑫片山が右サイドを懸命に泳ぎゴールに近づくと、たまたら日体大GK①佐々野が危険を冒して前に出たが失敗。慶大はこのピリオド最後には、桐朋コンビの⑦日高一センター②田中が決まり、一矢を報いて前半を折り返した（日体大12-5慶応大）。

3P

日体大⑩荻原がボール奪取、速攻、退水誘発などプール全体を泳ぎ回る活躍が目立ったのが第3ピリオド。対する慶大はキープ力のある③富永がDFを振り切る場面で場内を沸かせるが、シュートにまで至らない。日体大17-7慶応大で最終ピリオドへ。

4P

日体大はスタメンに戻して、慶大にシュートを打たせてからの速攻を繰り返して順調に加点。5点を連取したところで日体大22-7慶応大となり、コールドゲームで試合を終えた。

ホームゲームという事で序盤の慶大の果敢な攻撃は場内を沸かせたが、その流れを阻止したのが日体大の④宮澤・⑨渡邊・⑩荻原トリオ。特にこの試合では⑨渡邊が積極的に右サイドでのプレーを見せ、プレーの幅を広げようという狙いを感じた。